

第22回大学教育研究フォーラム
2016年3月17日(木)
於:京都大学

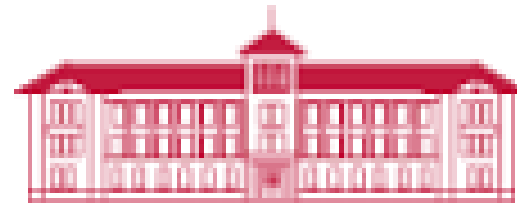
ライティングセンターによる ライティング支援のためのルーブリックの開発

小林至道¹ 大原悦子² 毛利美穂¹ 飯野朋美² 西浦真喜子¹

¹関西大学教育推進部 ²津田塾大学ライティングセンター



THINK × ACT
関西大学
KANSAI UNIVERSITY



THINK × ACT
KANSAI UNIVERSITY

本発表の目的

◆ 次の2点をご報告し、皆さまからのご指摘をいただきたい

1. ライティングセンタールーブリック開発の経緯

2. ライティングセンタールーブリックの開発

1. ライティングセンタールーブリック開発の経緯



問題の所在①

◆日本の大学におけるルーブリック導入・研究の広まり

- 中教審答申の提言を受け、日本の大学教育においてルーブリックによる評価の導入の動きが広まる【1】
- 学修成果の可視化、主体的な学修を促すツール【2】

⇒これまでのライティング・ルーブリックの多くが、クラス単位、学部単位をベースに作成・検証されたもの【3】

問題の所在②

◆2012年度文部科学省採択 ＜考え、表現し、発信する力＞を培うライティング/キャリア支援(2016年度まで)

→両大学で、ライティングセンターを中心とした取り組み

「ライティング力の向上、およびそこから広がる多様な力の向上を客観的に測るための評価指標(ルーブリック)を作成し、支援に活用する。」【4】

◆授業と連携したクラスルーブリックの作成と運用【4】

→関大:「文章力をみがく」(共通教養科目)をモデルに運用

→津田塾大:英語ライティング、日本語ライティング授業で運用

⇒「**多様な力の向上を客観的に測る**」ことができる?

◆「ライティングセンターでの支援」とは何なのか?【5】

→授業外学修支援施設としての意義、成果の可視化の困難さ

(関大)「ライティングラボって、何してくれるところなの?」

(津田塾大)学生に点数をつけて、評価する場所ではない

本研究の目的・意義

◆目的:「ライティング力の向上、およびそこから広がる多様な力の向上を客観的に測るための評価指標(ルーブリック)を作成し、ライティングセンターでの支援に活用する。」

→ライティングセンターをベースとしたルーブリックの開発
(試行的運用→検証→改修→本格的運用)

◆意義:学修支援(ライティング/キャリア支援)を行う施設
レポート、論文作成を課題とする授業で広く使われること

2. ライティングセンタールーブリックの開発



開発体制

(1) メンバー

両大学のライティングセンターにかかわる教員5名

(2) 期間

2015年10月上旬～2016年3月上旬まで

(3) 方法

TV会議システムを用いて、合議（約1時間半×9回）

段階的にルーブリックを作成→議論→改善案→反映

開発プロセスにおける主な論点

◆できあがったルーブリックは、配布資料のとおり

◆開発の過程で、どのような点を議論してきたのか？

論点(1)ライティングセンターのルーブリックとは何か？

→いわゆる「ライティング・ルーブリック」との差異化

論点(2)「ライティングセンターによる」の意義

→ライティング支援現場の実情に即した使いやすさ

論点(1)ライティング・ルーブリックとの差異化

- なるべく幅広い文章タイプを対象として想定
→レポート、卒論、エントリーシート、ゼミ・留学志望理由書など
- 両ライティングセンターが蓄積してきたデータを反映
→(関大)アカデミックな相談文章の分析から見えてきた課題
→(津田塾大)エントリーシートなどの支援から見えてきた課題

⇒ライティングセンターは、学生に書く力だけをつけさせる場所ではなく、広く学修全般に向けての意識を変える契機として欲しい場所

結果、出来上がったルーブリックにおいて・・・①

◆具体的にそれがどういうところに反映されているのか？

- ①計画性(タイムマネジメント) ②学修への主体性
- ③教員からの課題の理解 ④読み手への意識

⇒①・②は、何もない段階から出来上がるまで必要な姿勢

⇒③・④は、課題の背景・経緯を共有しているとは限らない

第三者的にかかわるセンター(授業外施設)だからこそ重要視

論点(2)ライティング支援現場での使いやすさ

- ◆作った側の意図が、使う側にはなかなか伝わらない難しさ【3】
 - 「尺度間で、どちらに当てはまるのか判断が難しい・・・」
 - 「目指すべき今後の学習指針が、曖昧でわかりづらい・・・」
 - ◆院生がチューターとなるライティングセンターでも起こりうる問題
 - 作成者≠使用者を考慮した、細やかな工夫が必要
- ⇒ライティングの「プロセス」を支援するためという視点
すなわち、ライティングセンターが期待する点、ライティングセンターを利用する学生の実情(苦手とする点)を明確化

結果、出来上がったルーブリックにおいて・・・②

◆具体的にそれがどういうところに反映されているのか？

①評価の観点←ライティングのプロセスで期待し、重視する点

②グラデーション←期待する点(優秀)、学生の実情(尺度間)

◆ライティング(広く学修)支援の利用しやすさに寄与

→「学生」、「スタッフ(チューター)」、「運営管理者」にとって

今後の課題

- ◆ライティング支援現場での試行的運用(2016年4月～)
- ◆利用者のヒアリング、質問紙調査から改善点の把握
- ◆改修を繰り返し、より使い勝手のよいルーブリックへ

ご清聴いただき、ありがとうございました。



参考文献一覧①

- 【1】中央教育審議会「学士課程教育の構築に向けて(答申)」2008年.
中央教育審議会「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて(答申)」2012年.
- 【2】ダネル・スティーブンス+アントニア・レビ著(佐藤浩章監訳)『大学教員のためのルーブリック評価入門』玉川大学出版部、2014年、p.178.
遠海友紀・岸磨貴子・久保田賢一「初年次教育における自律的な学修を促すルーブリックの活用」『日本教育工学会論文誌』第36号、2012年、pp.209-212.
松下佳代「学習成果としての能力とその評価 - ルーブリックを用いた評価の可能性と課題」『名古屋大学高等教育研究』第14号、2014年、pp.235-255.



参考文献一覧②

- 【3】江口真理子「内容分析の手法を用いたライティング・ルーブリック具現化の試み」
『総合政策論叢』第24号、島根県立大学総合政策学会、2012年、pp.73-84.
葛西耕市・稲垣忠「アカデミックスキル・ルーブリックの開発 - 初年次教育におけるスキル評価の試み - 」『東北学院大学教育研究所報告書』第12号、2012年、pp.5-29.
- 【4】関西大学・津田塾大学「Ⅸ 評価指標開発部会の取組」『＜考え、表現し、発信する力＞を培うライティング/キャリア支援』2015年度報告書(校正中)
- 【5】飯野朋美・稲葉利江子・大原悦子「個別相談とライティング支援の可能性：
津田塾大学ライティングセンターの活動分析から」『津田塾大学紀要』第47号、
2015年、pp.133-148.
佐渡島紗織・太田裕子編『文章チュータリングの理念と実践 早稲田大学ライティング・センターでの取り組み』ひつじ書房、2013.

